

令和8年度 群馬県高体連テニス大会諸規定

R 8 . 4 . 1

I 参加資格・登録等について

1 選手

- (1) 学校教育法第1条に規定する高等学校（中等教育学校後期課程を含む）に在籍する生徒であること。
- (2) 群馬県高体連テニス専門部に登録を完了したもの。（3-(6)）
- (3) 年齢は平成19年（新人大会は平成20年）4月2日以降に生まれたものとする。但し、同一学年での出場は1回限りとする。（新人大会は3年生は出場できない）。個々の大会の出場制限はⅢに定めるものとする。
- (4) チームの編成は、全日制、定時制、通信制課程の生徒による混成は認めない。
- (5) 転校後6ヶ月未満のものは参加を認めない。但し、一家転住の場合は特例として参加を認める。
- (6) 参加選手はあらかじめ健康診断を受け、当該校長の承認を必要とする。

2 引率・監督

- (1) 引率責任者は、校長の認める学校の職員とする。（但し、公立学校にあっては教員とする。）また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」（学校教育法施行規則第78条の2に示された者）も可とする。但し「部活動指導員」に引率を委嘱する校長は、県高体連会長に事前に届け出ること。
- (2) 監督は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険（スポーツ安全保険等）に必ず加入することを条件とする。

3 大会参加費・登録について

- (1) **参加費・登録費・全国高体連テニス専門部徴収金は下記宛に送金（振り込み）する。ドロウ（組合せ）会議の前日までに振り込んで下さい。**

店番号 253 普通 口座番号 0173964
群馬銀行 明和出張所
群馬県高体連テニス専門部 会計 唐澤 賢司

※領収書は大会会場でお渡しします。

- (2) 送金者の氏名にカナをふる場合に、「グンマケンリツ・コウコウ」は省略し男女をつける。通帳にカタカナで12文字（濁点含む）までしか記載されないため。

例 高崎高校の場合 「タカタカ」 高崎工業高校の場合 「タカコウ」
前橋東高校の場合 「マエヒガシ ジョシ」 「マエヒガシ ダンジョ」

(3) 参加費

- | | | | | |
|-------------|----|-------------|--------|-------|
| ①個人戦<1人(組)> | 総体 | <u>800円</u> | 選手権・新人 | 800円 |
| ②団体戦<1チーム> | | | 選手権・新人 | 4000円 |

- (4) 登録費・・・1校5,000円（県協会3,000円、高体連2,000円）

- (5) **全国高体連テニス専門部徴収金** 各校男女別で「700円」
・部員が男女いる学校700円×2＝1400円

- (6) 登録用紙は、「群馬県高体連テニス専門部」のホームページ上からダウンロードする。4月中にメール（添付ファイル）で送る。

II 競技規則

1 試合について 日本テニス協会 「テニスルールブック2026」による。

- (1) 試合形式は以下の通りとする。
 - ① 原則として1セットマッチ（6-6で12ポイントのタイブレーク）とする。
 - ② 高校選手権（インターハイ予選）の個人戦・団体戦の準決勝以降は、8ゲームブローセット（8-8で12ポイントのタイブレーク）とする。また、ダブルスの準決勝以降は、ノーアドバンテージ方式とする。
 - ③ 新人大会個人戦予選は、熱中症対策として1セットマッチセミアドバンテージ方式を採用する。
 - ④ すべての試合で（サービス）ノーレットルールを採用する。
- (2) 試合前の練習は、原則としてサービス4本とする。
- (3) ポイント間は25秒以内、エンドの交代（ゲーム終了から次ゲーム開始まで）は、90秒以内とする。
- (4) 個人戦はセットブレイク・ルールを採用する。第1ゲーム終了後、ベンチで休息をとることはできない（水分補給のみ可）。ただし、団体戦では採用しない。
- (5) タイブレーク時にはベンチに座ってはならない。水分補給や汗拭きのみ可とする。また、団体戦の時は、ベンチコーチとの会話は禁止とし、コーチングを受けることはできない。
- (6) いかなる理由によっても選手はコートを離れないことを原則とする。
- (7) コートに入った選手は、外部と会話をしたり外部から援助を受けたりしてはいけない。失格となる場合がある。ただし、ガットが切れた場合のみ、外部からの援助を認めるが、ラケットは複数持って試合に入ることが望ましい。
- (8) ケガについては、1試合で1回に限り、レフェリーに要求後、3分間以内に手当をすることができ。ただし、けいれん時には認められない。
- (9) 全国高校総体および全国選抜大会では、リタイアした選手は、同日のそれ以降の試合に出場できないと規定されている（次の日になれば出場可）。ただし、群馬県内の大会では、他種目であればレフェリーが「出場可能」と認めれば出場することができる。
- (10) タオルをコートの後ろに置くことを認める。ただし応援者との会話は禁止する。
- (11) 相手選手に対する威嚇するようなガッツポーズは禁止する。

2 審判（セルフジャッジで行う）

- (1) サーバーはサーブを打つ前、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンスする。プレーヤー同士、アナウンスによってその時点のスコアを確認する。
- (2) ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチした時、ボールとラインの間に空間が見えなかった時、あるいは、ボールを見失って判定できなかった時は「グッド」である。ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えた時は「アウト」または「フォールト」である。
- (3) 判定とコールは、相手にははっきりと分かる声とハンドシグナルを使って、ボールの着地後速やかに行う。代表的なハンドシグナルは、人差し指を出して「アウト」「フォールト」を示し、手のひらを地面に向けて「グッド」を示す。
- (4) ダブルスの判定とコールは、1人のプレーヤーが行えば成立する。しかし、ペアの判定が食い違った場合はそのペアの失点となる。ペアの判定が食い違ったとしても「フォールト」「レット（グッド）」に訂正した場合は、1回目限り故意ではない妨害としてポイントレットとなる。
- (5) 次の場合レフェリーまたはロービングアンパイアに速やかに申し出る。
 - i) プレーヤー同士で解決できないようなトラブルが起こった時
 - ii) 相手プレーヤーの言動やコール、フットワーク等に疑問、不服がある時
 - iii) 試合中に、トイレ、着替え等でコートを離れる時
 - iv) スコアがわからなくなった時この場合、双方のプレーヤーが合意できるスコアまでさかのぼり、それ以降のプレーで双方が合意できるポイントを超えたスコアから再開する。合意できなかったポイントは取り消される。ゲームスコアがわからなくなった時も同様とする。
- (6) 試合終了後、勝者は大会本部に試合ボールとスコアシートを届けスコアを報告する。

3 団体戦（監督・ベンチコーチ）

- (1) 監督がいない場合は、試合を没収する。
- (2) ベンチコーチについて
 - ① 監督・登録選手・登録されたベンチコーチが、各コートに1人ずつ入ることができる。
 - ② インプレー中は、ベンチに座って選手のプレーを静かに見守る。ポイント間もベンチから立たない。
 - ③ コーチングは、エンド交代時のみ行うことができる。ただし、タイブレーク中のエンド交代時にはコーチングはできない（水分補給や汗拭き）。
 - ④ ポイント間は、技術的内容・戦略的内容を含む声かけやジェスチャーはできない。
良い例 がんばれ、ナイスショット、ドンマイ、先リード、ポイント、強気、集中、ファースト
悪い例 前が出る、もっと振り抜け、ラリーを続ける、打っていけ、もっと攻めていけ
 - ⑤ ポイント間に選手のもとに行くことや選手を呼び寄せることはできない。
 - ⑥ 多面同時展開の時、隣のコートの応援やコーチングはできない。その場合はコートを移動して行う。
コート移動は、インプレー中でなければいつでもできるが、時間内（25秒以内）で速やかに

- 行う。ただし、選手がサーブを打つ準備（ボールをつく等）に入ったら、移動は認められない。
- ⑦日傘や雨傘を差してもよい。ただし、光が反射してプレーの妨げとなる傘（シルバー色など）を差すことはできない。
- (3)本専門部に未登録で、新人大会団体に選手として登録する場合の追加登録の期限は、申込日までとする。

4 観客席からの応援について

- (1)試合中、コート外の誰からもコーチング（ジェスチャーを含む）を受けることはできない。
- (2)がんばれ、ナイスショット、ドンマイ、先リード、ポイント、強気、集中、ファースト等の応援はよいが、前に出る、もっと振り抜け等の技術的内容・戦略的内容を含む応援はコーチングとして判断される。
- (3)「③オフコートコーチング」は、採用しません。

5 ダブルエントリーについて（群馬県高体連主催大会と群馬県協会主催大会）

選手が同一期間内に行われる2つ以上の大会に出場を申し込んだ場合、試合日が重複した場合は、出場する大会を選手自身が選択しなければならない。（群馬県高体連が主催する本戦大会を欠場する場合は、必ず顧問がテニス専門部委員長に連絡する。この選手の団体戦の登録順位および次大会の個人戦のシード順位は、常任委員会にて審議し決定する。）

6 ポイント

群馬県高校テニスランキングおよび新人大会個人戦・団体戦は、以下のポイントを使用する

I シングルス

	高校総体・インターハイ予選	新人大会
優勝	16	14
準優勝	14 ※	12
ベスト4	12 ※	10
ベスト8	10	8
ベスト16	8	6
ベスト32	6	4
(ベスト33 1回戦勝者)	5	3
ベスト64	4	2
(ベスト65扱い 1回戦敗者)	3	1.5

※2～4位(または3位)決定戦がある場合 2位14点 3位13点 4位12点

II ダブルス(1人)

	高校総体・インターハイ予選	新人大会
優勝	7	6
準優勝	※6	5
ベスト4	※5	4
ベスト8	4	3
ベスト16	3	2
(ベスト17 1回戦の勝者)	2.5	1.5
ベスト32	2	1
(ベスト33 1回戦の敗者)	1.5	0.75

※2～4位(または3位)決定戦がある場合 2位6点 3位5.5点 4位5点

7 群馬県高校テニスランキングについて

- (1) 新人大会個人・高校総体個人・インターハイ予選個人のポイントを合計して、シングルス・ダブルス共に1位～10位までのランキングを規定する。
- (2) ポイントは、「II 競技規則 6 ポイント」を採用する。
- (3) シングルスは認定証と楯、ダブルスは認定証とする。

Ⅲ 諸大会細則

1 高校総体〈個人〉

(1) 参加資格

① 群馬県高体連テニス専門部に登録した2・3年生および②の参加資格を満たす1年生とする。

② 1年生の参加資格

- i) 群馬県テニス協会A級・B級資格保持者（令和8年4月1日現在）
- ii) 令和5年度～令和7年度の中体連・中体連主催大会の出場者
- iii) 関東テニス協会・日本テニス協会にジュニア登録をしている者
- iv) 今までに群馬県テニス協会に登録したことがある者
- v) 県外出身者で常任委員会で認めた者（事前に連絡をお願いします）
- vi) 中学校でソフトテニス部またはクラブに所属していて、個人戦または団体戦で群馬県大会に出場した選手。ただし、テニスのルールを理解し、セルフジャッジで試合が行えることを条件とする。

※ i) について

A級資格保持者とは、群馬県テニス協会「2026年度A級認定名簿」の認定選手及び令和8年3月実施の群馬県ジュニアテニス選手権大会でのA級昇格者です。令和8（2026）年度群馬県春季テニストーナメントでの昇格者は該当しません。

(2) 申込みは新人大会個人の本戦の成績順とする。ただし、同成績および本戦出場選手以外は、申込み時点での校内の実力順とする。

(3) 予選・本戦方式を採用する。地区割は、新人大会個人と同様とする。（4-(3)）
本戦は、S64ドロー（+1年生A級）、D32ドロー（+1年生A級）とする。

(4) 予選の配分は、次の通りとする。

- ① 新人大会Sのベスト16とベスト32（計24人）、Dのベスト8とベスト16（計12組）を、それぞれ該当地区に割り振る。
- ② 残りのS32本・D16本は、各地区の申込数に応じて均等に割り振る。

(5) 本戦についての規定は、次の通りとする。

- ① 前年の新人大会のSベスト8・Dベスト4は、本戦ストレートインとする。
- ② 1年生で県A級資格保持者および・県外出身者でこれと同等の力があると常任委員会で判断した者は、S本戦ストレートインとする。
- ③ 1年生で県A級資格保持者同士のペアは、D本戦ストレートインとする。また、2・3年生で実績のある選手が、1年生のA級資格保持者とペアを組んで出場する時、本戦ストレートインのペアと同等の力があると常任委員会で判断した場合は、D本戦ストレートインとする。
- ④ 本戦の組み合わせは、新人大会個人の結果に基づき、ストレートイン選手にシードをつける。新人大会個人Sベスト16・Dベスト8の選手・新入生で同等の力があると認められる選手（その選手が入っているブロック）についてはシード順位を考慮する。それ以外はすべて抽選とする。
- ⑤ D本戦ストレートインのペアがそのペアで出場できるにも関わらず、学校の判断で別の選手（ただしD本戦出場者か新1年生の出場資格者）と組む場合もD1組は本戦ストレートイン（各校登録順位の上位のペアが優先）とし、シード順位は変わらない。しかし、D本戦ストレートインの選手が事情により出場できなくなった場合は、本戦のシード順位を下げる場合がある。
- ⑥ 初戦のみ同校の選手が当たらないようにする。まだ予選が終わっていない場合は、予選ブロックの両シードのみを考慮する。

(6) 予選・本戦ともにトーナメント方式とし、本戦のSは3位決定戦を行う。

(7) 予選・本戦ともに（サービス）ノーレットルールを採用する。

(8) Sは上位3名、Dは上位1組が関東大会に出場する。

(9) 関東大会が本県で開催される場合のDは、上位2組が関東大会に出場するためベスト4以上で順位戦を行う。この順位戦の2位決定戦については、トーナメントの決勝の敗者と準決勝の敗者同士の対戦の勝者が、準決勝で対戦していない場合に行い、その勝者が2位となる。ただし権利者の出場が不可能な場合は繰り下がることがある。

2 高校総体<団体>

- (1) 複1・単2の3ポイントで行い、重複はできない。
 - (2) メンバーの登録については、次の通りとする。
 - ① 登録人数は**5名**とし、最少人数は4名とする。ベンチコーチ登録を1名認める。
 - ② 登録順位については、新人大会個人の成績順とし、新人大会団体の方式(5-(2)②)に従う。(申込みの時点での総体個人は予選しか行われていないため、その時点での結果は、登録順位に反映されない。)
 - ③ 新人大会個人の結果が同成績の場合及び本戦出場選手以外の順位は、団体戦申込み時点での校内の実力順とする。
 - ④ 総体個人S本戦ストレートインの新1年生の登録順位は、本戦のシード順位を重んじる。
 - ⑤ 高校総体個人が終了した時点で、その成績順に変更となる。ただし、同成績の場合は、団体戦申込み時の順位が優先される。
 - ⑥ メンバー変更(追加も含む)は、初戦エントリー時に2名まで認める。その場合、変更された選手の順位は最下位となるが、その選手が総体個人のポイントを持っている場合は、その成績順とする。ベンチコーチの変更も同様に認める。
 - (3) 組み合わせについては、次の通りとする。
 - ① シード順位は、原則として新人大会団体の成績に基づく。1～4位をそのまま1～4シードとし、ベスト8およびベスト16の学校はそれぞれでの抽選とする。それ以外の学校は、すべて抽選とする。
 - ② 新1年生の加入等で、明らかにシード校同等の力があると認められる学校については順位を考慮する。この場合、全体のシード順位が変動する場合がある。
 - (4) 試合の形式については、次の通りとする。
 - ① 原則としてD・S1・S2の順に行う。
 - ② 試合を2面以上で並行して行う場合もある。この場合、ベンチコーチは1コートにつき1名を認める。(登録された監督・選手のみ)
 - ③ ベスト4決定まではトーナメント方式で行い、上位4校で決勝リーグを行う。
 - ④ 初戦と決勝リーグは、全ポイントを行う。この場合、勝敗決定後に限り、相手校の了承があれば選手を変更してもよい。その際は必ずレフェリーに届ける。他の試合は、すべて勝敗決定後に打ち切りとする。
 - (5) 決勝リーグの規定は、次の通りとする。
 - ① 試合順序は以下とする。

第1試合	A (第1シードブロック) - B (第4シードブロック)
	C (第3シードブロック) - D (第2シードブロック)
第2試合	A-Bの勝者 対 C-Dの敗者
	A-Bの敗者 対 C-Dの勝者
第3試合	残りの対戦
 - ② 同じ勝敗の場合の順位のつけ方の規定
 - 2校の勝敗が同じ場合・・・両校の対戦の勝者を上位とする。
 - 3校の勝敗が同じ場合・・・該当する3校間の対戦の勝ポイントの多い順に順位をつける。(3勝または3敗の学校との対戦結果は考慮しない)
 - ・ 2校の勝ポイントが同じ場合は、両校の対戦の勝者を上位とする。
 - ・ 3校の勝ポイントが同じ場合は、3校間の対戦の取得ゲーム率の高い順に順位をつける。(※取得ゲーム率 = 取得ゲーム数 / 全ゲーム数)

↓

 - ・ 2校の取得ゲーム率が同じ場合は、両校の対戦の勝者を上位とする。
 - ・ 3校の取得ゲーム率が同じ場合は、監督による抽選とする
 - ③ 試合と試合の間の休息は原則として20分～30分とする。
- (6) 全ての試合、(サービス)ノーレットルールを採用する。
- (7) 上位2校が関東大会に出場する。
- (8) 関東大会が本県で開催される場合は上位3校が関東大会に出場する。この場合は、決勝リーグを行わずに、トーナメントで3位決定戦を行う。(準決勝以降は、全ポイント行う)

3 県高校選手権兼全国高校総体（インターハイ）県予選

<個人>

- (1) 参加資格者は、高校総体個人の本戦出場者のみとする。
ただし、Dの場合、総体出場ペアの片方が出場できない場合はこの限りではない。
- (2) 申込みは、高校総体個人本戦の成績順とする。ただし、同成績の場合は申し込み時点での校内の実力順とする。
- (3) S・Dともにトーナメント方式を基本とし、Sは出場枠が「2人」の場合は、2位決定戦を行い、「3人」の場合は3位決定戦を行う。2位決定戦については、トーナメントの決勝の敗者と準決勝の敗者同士の対戦の勝者が、準決勝で対戦していない場合に行い、その勝者が2位となる。
- (4) 組み合わせについて、
 - ① 高校総体個人の結果に基づき、Sベスト16・Dベスト8以上にシードをつける。
 - ② Dのペアがそのペアで出場できるにも関わらず、学校の判断で別の選手(D本戦出場者)と組み出場する場合は、シード順位は変わらない。しかし、Dのペアが事情により出場できなくなった場合は本戦のシード順位を下げる場合がある。
 - ③ 初戦のみ同校の選手が当たらないようにする。
- (5) S・Dともに準決勝以降（順位戦も含む）は、8ゲームプロセット（8－8で12ポイントのタイブレーク）とする。ただし、Dの準決勝以降はノーアドバンテージ方式とする。
- (6) 全ての試合、（サービス）ノーレットルールを採用する。
- (7) 今年度は、Sは男子上位2名、女子上位3名、Dは上位1組が全国高校総体に出場する。

<団体>

- (1) 参加資格校は、高校総体団体ベスト16以上とする。
- (2) 登録人数は4～5名とする。登録順位は、高校総体個人の成績順とする。ただし、同成績及び本戦出場者以外は、申込み時点での校内の実力順とする。ベンチコーチ登録を1名認める。
- (3) 県高校選手権兼全国高校総体県予選個人の終了時点で、その成績順に変更となる。ただし、同成績の場合は、団体戦申込み時の順位が優先される。
- (4) メンバー変更（追加も含む）は、初戦エントリー時に2名まで認める。その場合、変更された選手の順位は最下位となるが、その選手がインターハイ予選個人のポイントを持っている場合は、その成績順とする。ベンチコーチの変更も同様に認める。
- (5) シード順位は、高校総体団体の成績に基づく。1～4位をそのまま1～4シードとし、5～8シードはベスト8の4校の抽選とする。それ以外は8校の抽選とする。
- (6) 試合方式等は、高校総体団体と同様とする。
- (7) すべてトーナメント方式とする。
- (8) 全ての試合、（サービス）ノーレットルールを採用する。
- (9) 1・2回戦は1セットマッチ（6－6で12ポイントのタイブレーク）とし、準決勝以降は8ゲームプロセット（8－8で12ポイントのタイブレーク）とする。1回戦と決勝は全ての試合を行う。
- (10) 熱中症対策などのため、2日間開催を原則とするが、コート確保ができない場合はこの限りではない。
- (11) 男女とも上位1校が全国高校総体に出場する。

4 新人大会 <個人>

(1) 参加資格は、群馬県高体連テニス専門部に登録した1・2年生とする。

(2) 申込み順位は、校内の実力順とする。

(3) 予選・本戦方式を採用する。予選は次の3地区制とする。

- 中部・・・前橋・伊勢崎・佐波
- 東部・・・桐生・太田・館林・みどり・邑楽
- 西部・・・高崎・藤岡・富岡・渋川・沼田・安中・甘楽・多野・吾妻

(4) 個人戦の規定は、次の通りとする。

- ① 本戦はS64ドロー、D32ドローとする。ただし、
 - i Sで高校総体個人でベスト16に入らずに高校選手権個人でベスト8に入った選手がいた場合は、この限りではない。
 - ii Dで高校総体個人でベスト8に入らずに高校選手権個人でベスト4に入って組み替えのない場合は、この限りではない。
- ② 本戦ストレートインの規定は、次の通りとする。

- i シングルス
 - ・高校総体または高校選手権個人のどちらかで、Sベスト8以上の選手。
 - ・本年度群馬県国体代表選手。
- ii ダブルス
 - ・高校総体または高校選手権個人のどちらかで、Dベスト4以上で組み替えのない場合
 - ・ベスト4以上の1・2年生の選手の中で組み替えをした場合
 - ・1・2年生ペアでダブルスベスト4以上に入ったが、そのペアで出場できるにも関わらず、学校の判断で別の選手(D本戦出場者)と組む場合。
 - この場合1組(各校登録順位の上位のペア)を本戦ストレートインとする。
 - ・1・2年生のペアで、ペアのダブルスポイントが「20ポイント」以上の場合

③ 予選の配分は次の通りとする。

- i シングルス(基本枠は64)
 - ・高校総体またはインターハイ予選シングルスベスト16～32の1・2年生の人数を該当地区に割り振る。
 - ・残りの本数を各地区の申込数に応じて均等に割り振る。

申込総数が、	192人以上の場合	本戦(予選)本数は	「64」
	180人～191人の場合	「	「60」
	168人～179人の場合	「	「56」
	156人～167人の場合	「	「52」
	144人～155人の場合	「	「48」
	132人～143人の場合	「	「44」
	120人～131人の場合	「	「40」
	108人～119人の場合	「	「36」
	96人～107人の場合	「	「32」
- ii ダブルス(基本枠は32)
 - ・ストレートインを除いた1・2年生で、a)・b)の組数を該当地区に割り振る。
 - a) ペアのダブルスポイントが「10ポイント」以上
 - b) ペアの1人が2大会ともベスト8以上
 - ・残りの本数を各地区の申込数に応じて均等に割り振る

申込総数が、	96組以上の場合	本戦(予選)本数は	「32」
	84組～95組の場合	「	「28」
	72組～83組の場合	「	「24」
	60組～71組の場合	「	「20」
	48組～59組の場合	「	「16」

(5) 本戦についての規定は、次の通りとする。

- ① シード順位には、「II 競技規則 6 ポイント」を採用する。
 - ・高校総体・インターハイ予選のポイント(Dについては、ペアの2人のポイントを合計)を合計し、ポイントの多い選手順にシードをつける。ただし、Dのシードはペアの合計が8ポイント以上とする。
 - ・同ポイントになった場合は、抽選とする。
- ② ストレートイン選手は、ポイントが低くても、シード順位は上位とする。
- ③ 高校総体個人戦に出場していない1年生で、シード選手同等の力があると認められる場合についてはシード順位を考慮する。
- ④ 初戦のみ、同校の選手が当たらないように配慮する。

(6) 予選・本戦ともにトーナメント方式とする。

(7) 予選は、熱中症対策として1セットマッチセミアドバンテージ方式を採用する

(8) 予選・本戦ともに(サービス)ノーレットルールを採用する。

5 新人大会 <団体>

- (1) 複2・単3の5ポイントで行い、重複はできない。
- (2) メンバーの登録については、次の通りとする。
 - ① 登録人数は7～9名とする。部員数が7名に満たない場合は4名以上で別途定める細則に則った不戦敗規定（登録人数の差異による、勝敗の決定方法）を条件に参加を認める。
 - ② 登録順位は、新人大会個人のS本戦の成績順とする。ただし、同成績の場合は、D本戦の成績上位者を上位とする。Dのみ本戦出場者の場合は、S本戦出場者の次の順位に入れる。その場合も、D本戦の成績上位者を上位とする。また、新人大会個人の結果がSDとも同成績の場合及び本戦出場選手以外の順位は、団体戦申込み時点での校内実力順とする。
 - ③ メンバー変更は、初戦エントリー時に2名まで認める。その場合、変更された選手の順位は最下位とする。この場合、登録順位が最下位の選手よりもポイント上位の選手を後から変更することはできない。なお、登録人数が7名に満たない場合は、申込日以降に追加することはできない。
 - ④ 本専門部に未登録で、新人大会団体に選手として登録する場合の追加登録の期限は、申込日までとする。
- (3) シード順位の決定は以下の通りとする。
 - ① 新人大会個人の戦に3人（組）以上が出演している学校を対象とする。この3人（組）はすべて重複していないものとする。
<S3人 or S2人とD1組 or S1人とD2組>
 - ② ポイントは、「Ⅱ 競技規則 6 ポイント」を採用する。
 - ③ S3人・D4人（SとDは別人）までのポイントを合計し、シード順位を決定する。その際に、各学校の最大のポイントとなるようにする。
 - ④ 同ポイントの場合は、抽選とする。
 - ⑤ 新人大会個人戦の本戦に2.5人（組）または2人（組）が出演している学校については、順位を考慮する。
- (4) 試合の形式は、次の通りとする。
 - ① 原則としてS1・D1・S2・D2・S3の順に行う。
 - ② Sの順位は、登録順位の上位からS1、S2、S3とする。
 - ③ Dの順位は、両者の登録順位の合計値の小さい方を上位とする。
例 登録順位が3位と6位のペア（合計値9）、4位と7位のペア（合計値11）の場合は、3位と6位のペアをD1とする。
また、合計値が同数の場合は、登録順位の最上位の属するペアを上位とする。
例 3位と7位のペア（合計値10）、4位と6位のペア（合計値10）の場合は、3位のいるペアをD1とする。
 - ④ 2面以上で並行して行う場合もある。この場合、ベンチコーチは1コートにつき1名を認める。（登録された監督・選手のみ）
 - ⑤ ベスト4決定まではトーナメント方式で行い、上位4校で決勝リーグを行う。
 - ⑥ 初戦と決勝リーグは、全ポイントを行う。この場合、勝敗決定後に限り、相手校の了承があれば選手を変更してもよい。その際は必ずレフェリーに届ける。他の試合は、すべて勝敗決定後に打ち切りとする。
 - ⑦ 全ての試合、（サービス）ノーレットルールを採用する。
- (4) 決勝リーグの規定は、高校総体<団体>の規定（Ⅲ-2(5)）と同じとする。
- (5) 上位2校が関東選抜高校テニス大会に出場する。

IV 倫理規則

テニスプレイヤーとしてマナーを守り、恥ずかしくない行動をとることとする。

1 服装

- ① テニスウェア（ソックスを含む）・テニスシューズとする。
（日本テニス協会 ルールブック2026 参照）
- ② ゲームシャツでないTシャツ・トレーナー・学校の体育着等は不可とする。
- ③ 校名等のバックプリントを入れたテニスウェアを着用して試合を行うことはできない。
- ④ ステンシルマークについては、ルールブックの記載の通りとする。
- ⑤ テニスウェアの下に、スポーツインナーの着用を認める。
- ⑥ 試合当日のエントリー（受付）は必ず試合を行うテニスウェアで行う。その際、大会本部にてウェアチェックを行う。
- ⑦ エントリー（受付）時間を厳守すること。遅れた場合は出場できない。
- ⑧ 表彰式などの式典に参加する選手は、試合に相当する服装で参加する。

2 応援

(1) 個人戦……拍手のみとする。ただし、相手のミスには拍手しない。

(2) 団体戦……選手への声を出しての応援を認める。（組織的な応援は認めない）
ただし、全国高体連テニス専門部の規定により、以下の通りとする。

- ① 歌や複数部員による連呼は、試合前の練習時間のみ認める。
3ポイントの団体戦の場合は、各試合前の練習時（3回）とする。
- ② ポイント間やエンドの交代時には、連呼は1回までとする。

例 「○○ばんかーい！ ばんかーい！」
「1本せんこーう！ せんこーう！」

(3) 注意事項

- ① 相手プレイヤーのプレーに関する言動は一切禁止とする。（味方選手への応援のみとし、相手選手への威嚇・中傷などは禁止）
- ② ファーストサーブとセカンドサーブの間は応援はしてはならない。
- ③ インプレー中（サーバーがレディポジションについたときから、そのポイントが終わるまで）は、声を出したり身体の一部でも故意に動かしたりしてはいけない。
- ④ コートに入った選手に外部から援助したり、話しかけたりしてはいけない。
- ⑤ 応援者が勝手にジャッジしたり、選手のジャッジにクレームをつけたりしてはいけない。（ジャッジに対する一切の言動を禁止する）
- ⑥ 応援者からの技術的・作戦的なアドバイスは一切禁止する。
- ⑦ 楽器や小物を使っての応援は禁止する。
- ⑧ 常にフェアプレー精神に心がけ、隣のコートでプレーしている場合は気を配って応援を行うこと。

3 その他

- ① 試合当日、大会が行われる公営コートの早朝練習は禁止とする。
- ② 駐車場や広場等でのボールを使用した練習は禁止とする。
- ③ テニスコート周辺で校歌等を歌うことや大声を出したりすることは禁止とする。

V 群馬県高体連テニス専門部Webページ（ホームページ）について

さまざまな情報を掲載しています。大会結果も掲載しておりますので、活用してください。各大会の日程や会場・ドロー等は組合せ会議日の夜には、ホームページに掲載しますので、確認をお願いします。